

岡 知史

ひとを救うもの

ぼくはいま社会福祉を自分の仕事としているのだが、そのきっかけとなったのが、大学時代のボランティア活動だった。そして、そのボランティア活動にぼくを導いたのは、夕刊に載った小さな新聞記事であった。それは、ひとり娘に嫁がれてしまい、ひとり家に残された父親がさびしさのあまり自殺したことを伝えていた。

ぼくには、強烈な印象だった。もう九年も前のことなのだが、その記事の見出しさえはつきりと覚えていいる。『孤独苦に自殺』とあった。『ああ、人間は孤独によって死ぬものなんだ。『孤独苦』というものがあって、それは人間を殺してしまうほど強いものなんだ』と思った。

ぼくがそれまで考えていた『人間』というものは、もともと『強い』ものであった。『努力して、知識を得て考え、訓練を受け、自分自身を高めていく存在』というイメージがあった。人間はひとりひとり独立して、競争しあい、自分をより素晴らしいものにしていくように努力していくものだと思っていた。

それが、その記事を見たたん『そうではない』と思った。山の奥深くに岩があったとすると、その岩は雨や風や熱に長いあいだ晒(さら)されなにかぎり崩れないものである。しかし、人間は、山の奥深くに独り残されると、ぱっくりと内部から崩れてしまう。外から何の力を加えなくても、ぱっくりと二つに割れて壊(こわ)れてしまう。人間というのは、それほど脆(もろ)いものなのだ。

『孤独』ということだけで人間は死んでしまうのである。『孤独』によって死んでしまいそうな人間がいるとしたら、その人は、誰かが横にいるということだけで救われるのだろうか。横にいて話を聞いてくれる、横にいて自分に声をかけてくれる、横にいて顔をのぞきこんでくれる、そういうことだけで孤独な人間は救われるのである。

あの小さな新聞記事が、ぼくの人生を変えてしまうほどに大きな力を持ちえたのは、ぼく自身も孤独であったからだ。ぼくは、あのころ、ぼく自身を救うために、あらゆる本を読んでいた。人類の偉大な思想、偉大な科学、偉大な宗教が、ぼくを救うのだと思っていた。しかし、そうではなかった。

『孤独苦』で死んだ老人は、ぼく自身でもあったのだ。ぼくはそれほど孤独だった。しかし、それをどうしても認められなかった。『自分の周りに人がいない』というただそれだけのことで、自分がこれほど苦しんでいるとは信じたくなかった。人間はもともと『強い』ものだと思いたかった。自分自身を高め、自分自身をみがかき、自分自身を大切にしていくながら、自分自身も大事だと信じていた。しかし、そうではなかったのだ。

人間は『独りにされる』というただそれだけのことで死んでしまう。昆虫は虫カゴのなかにエサさえあれば何日でも生きていけるのかもしれないが、人間はそういうものではないのである。

ぼくはそう考えて、ボランティア活動を始めた。そして障害児の施設に通いはじめた。ある日、小学二年生ぐらいの、ほとんど口のきけない、歩くのもとても不自由そうな男の子が、ぼくのところへ来て、そっとその手をぼくの手重ねてきた。すると不思議なこと

に、ぼくの全身をおおい、ぼく自身を締めつけていた
重い何かが風のように消えていったのである。

貧（むさぼ）るように読んだ哲学の思想も、宗教の
教理も、心理学の理論も、ぼくを救わなかった。それ
なのに、こんな小さな子の、こんな小さな行為がぼく
を一瞬にして救ってしまったのだ。

イエスが、荒野の果てに捨てられた病の人びとを、
手を置くだけで救われたという話をぼくは信じている。
ぼく自身もまた、手を置くだけで救われた人間のひと
りだったのである。

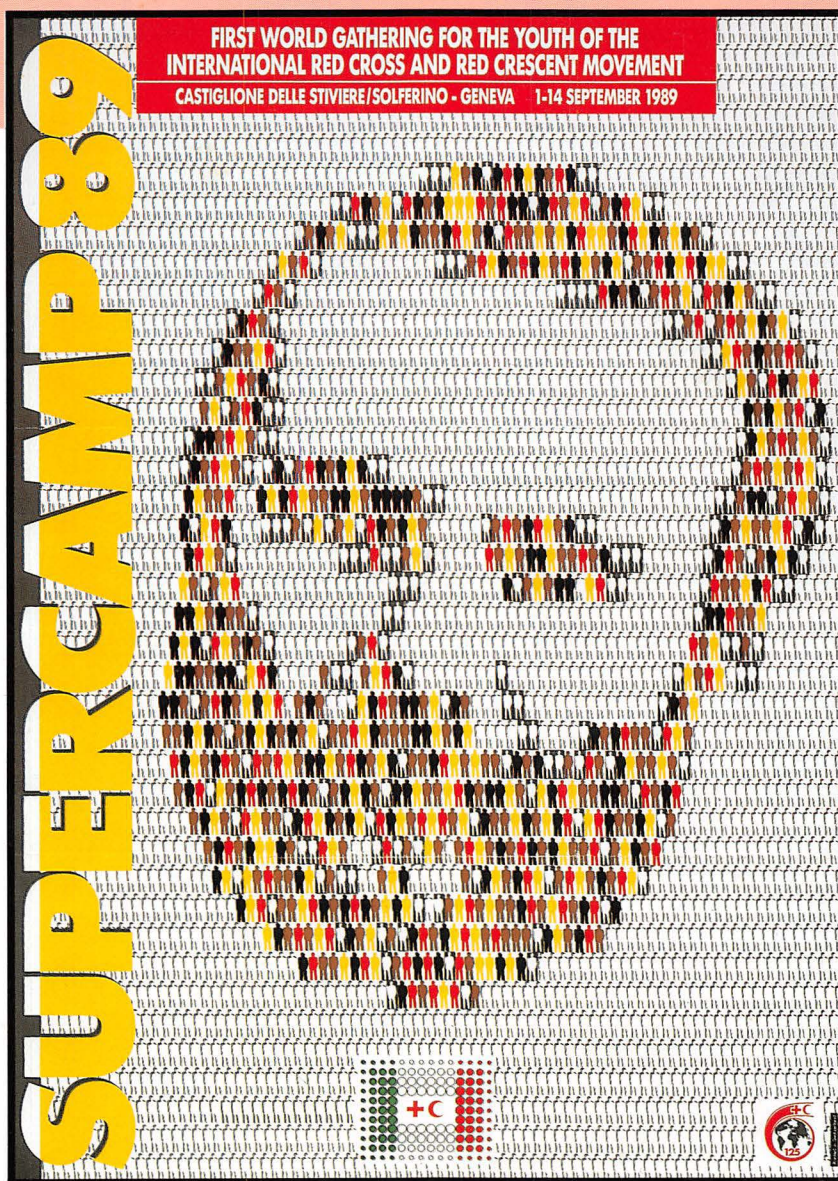
●このエッセイは、平成元年夏の「青年赤十字奉仕団
リーダー研修会」のとき、講師としてお招きした社団
法人大阪ボランティア協会事務局次長早瀬 昇氏が講
義の中で引用されたものです。

ここに早瀬 昇氏、転載を許可いただいた「あべの
ボランティア・ビューロー」そして執筆者である上智
大学文学部社会福祉学科助手岡 知史氏に心から感謝
申し上げます。



Japanese Red Cross ボランティアの泉

赤十字奉仕団指導情報 No.16



CONTENTS

巻頭言／「いつもほほえみを」	1
特 集／スーパーキャンプ'89	2
赤十字の旗の下 野田篤子	3
日本参加者5人からの3つの提言	6
赤十字ボランティアへのメッセージ	8
参加者からの手紙	10
参加者座談会	12
世界へのメッセージ	15
自己紹介のためのイラスト	16
研修に使えるGAME②	17
「平成元年度NHK海外たすけあい」実施報告	18
ミニ情報PART.1／第2回全国ボランティア大会開催される！ 平成2年度赤十字奉仕団主要行事予定表	21
「ひとを救うもの」 上智大学文学部社会福祉学科 助手 岡 知史	22
被災地ルポ／サンフランシスコ大地震 「救援の主役はボランティアだった」	24
ミニ情報PART.2／平成元年度赤十字奉仕団関係本社行事実施状況	26
ミニ情報PART.3／1990年「赤十字運動国際テーマ」 編集後記	28
返送ハガキ	29
